



サービス・ツーリズム産業労働組合連合会 〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町9-6坂町Mビル2F TEL:03-5919-3261
発行人：石川 聡一郎

子ども子育て政策をつうじた観光産業とのかかわり

サービス連合推薦候補者との対談 第1弾



後藤 常康
サービス連合 会長

伊藤 孝恵 参議院議員
(愛知県選出)
サービス連合政策推進議員懇談会 幹事

対談にあたって これまでサービス連合は、サービス・ツーリズム産業の持続可能な発展のため、働くものの立場からの政策実現にむけて政治と向き合ってきました。来る第26回参議院議員選挙ではサービス連合「政策推進懇談会」の所属議員を重点候補として推薦しています。重点候補者の一人である伊藤孝恵参議院議員とサービス連合の後藤会長との対談を通じて、普段どのような政策に取り組んでいるか、そして目指すべき政治について伺いました。

政治家は“未来の当たり前”を創る仕事

後藤会長 本日はお忙しいところ対談の機会をいただき、誠にありがとうございます。まずは伊藤さんが国会議員を目指したきっかけをお聞かせいただけますでしょうか。

伊藤議員 本日は貴重な機会をありがとうございます。加えて、この夏予定されます第26回参議院議員選挙にむけて、ご推薦をいただきましたことに御礼申し上げます。またサービス連合がこれまで実施してきたコロナ感染症の影響に対する第1次から第11次の緊急要請について、このように11回にもわたり要請行動を行っている団体は他にありません。有益な現場の声を届けていただいたことに感謝致します。私は学生時代の4年間、ホテルナゴヤキャッスル（現在は建て替えのため閉館）でアルバイトをしていました。かつての仲間サービス連合から推薦をいただいた旨の報告をしたところ、とても喜んでくれました。

私はもともと政治家の親族がいるわけでもなく、政

治に興味がある訳でもない、普通の会社員でした。そんな私が突然、立候補をしたのは、生まれたばかりの次女の耳に障がいがあると指摘された事に端を発します。産後うつの中、これから彼女が生きていく「社会」や「未来」というものを初めて深く考えました。





障がいがあってもなくてもみんな同じだよ、なんて言いながら実際は違う現実社会。強者であろう政治家たちがこぞって自己責任を前提にして創る法律。理不尽や不安を感じる中、たまたま見かけたのが民主党（当時）の候補者公募サイトでした。その中で当時“特命人事部長”だった玉木雄一郎代表が「世の中には納得がいかない法律や制度があり、それを変えられる唯一の仕事が政治家だ。政治家の仕事は一つだけ、子どもたちの未来をつくることだ」と仰っていました。健康な時なら聞き流していたであろうこの言葉に、私は心をわしづかみにされ、号泣しながら一晩で一気に応募書類を書き上げた、これが立候補のきっかけです。あの夜のことを論理的に説明することが今でも出来ませんが、きっと、世の中は障がい者にやさしくないと愚痴りながら生きていくのではなく、だったらそれを変えてやると立ち上がる、そんな母としての人生を生きたかったのかもしれない。

子ども子育て政策だって政治の一丁目一番地

後藤会長 ありがとうございます。それでは伊藤先生が今重点を置いて取り組んでいる政策についてお聞かせください。

伊藤議員 私は、子どもたちと子育て世代から寄せられる声を我がものとして政策を作っています。我がものというか我がごとですから（笑）その中で実現したことのひとつとして「孤独・孤立対策」があります。孤独というと高齢者の孤独死をイメージしがちですが、いま日本では、産後うつや孤独な育児の中で自ら命を絶つお母さんが増えています。コロナ禍の「ステイホーム」は児童虐待を増長させました。子どもたちの自死は1978年の統計開始以来、最大です。また育児や介護と学業の狭間で苦悩するヤングケアラー問題についても、私は国会審議で16回、政府に対策を求めてきました。しつこい奴です（笑）しかし結果、我が国に「孤独担当大臣」が生まれ、孤独対策やヤングケア

ラーの支援が政府の「骨太の方針（経済財政運営と改革の基本方針）」の中に盛り込まれました。

国会議員は、子ども子育て政策より天下国家を語れ！とよくお叱りを受けるのですが、天下国家とは、子ども達に連なる未来のこと。天下国家とは、私たちの今日の暮らしそのものです。こんなに孤独にあふれている社会の中で、子どもたちの“生きる”につながるロープを何本も何本も作り、あっちにもこっちにも投げ込んでおく。それが政治家の仕事だと思っています。子ども子育ての政策の内容は、党によって殆ど違いがありません。違いがないはずなのに全く進まないことこそが課題であり、政策推進のテコとするため2018年に超党派ママパパ議員連盟を立ち上げました。合言葉は「子ども子育て政策だって政治の一丁目一番地」です。子ども子育て政策を軽視する永田町の常識を変えていきたいと切に思いますが、歴史や文化は一朝一夕では変わりません。私が目論んでいる“永田町の変化”は、この街に明るく違和感を作り、最初は反発があろうとも、続けることでそれに慣れてもらい、3年、5年と経過した後、いつの間にかそれが“当たり前”になっている、という状態です。



例えばこの部屋。5年前、次女が待機児童だった為、職責を全うする上で必要だったからこうなっているのですが、当初は内外から様々な否定的な意見いただきました。しかし、陳情に来るお母さんお父さん、超党派ママパパ議員連盟の仲間たちの援護射撃のお陰で、今や某重鎮のお孫さんまで遊びに来る場所になりました。未来の当たり前を創るのが今、なんだと思います。

後藤会長 日本の相対的貧困率は下がっていると聞いていたとは聞きますが、実際はどうなのでしょう。

伊藤議員 子どもの相対的貧困率は約7人に1人といわれています。しかし何県何市何学区に何人いて、その子がどのような支援に繋がり、どう改善されていったのか？を見ていかないと意味がありません。いわゆるEBPM(※)ができません。そういった基本的な調査もなされていないのが現状です。今までの政治が、子ども一人ひとりの学びや育ちを、自己責任や家庭の責任だと押し通してきた結果だと思います。

※EBPM…Evidence-Based policy Making 証拠に基づく政策立案



伊藤議員の議員会館事務室の様子 当初は批判を受けた

蒲郡の温泉旅館の女将たちに気づかされたこと

後藤 日頃から素晴らしい取り組みをされていると思います。子どもたちはこれからの社会の宝物です。しかし生まれた環境によって十分な教育が受けられない実態もあります。子どもたちに関する政策はもっと講じていくべきだと思います。



伊藤議員 私も日本中の子どもたちが一人残らず幸せになる政策に取り組みたいと思っています。先日、蒲郡市にある西浦温泉・三谷温泉の旅館の女将たちのもとに現場の窮状を教えていただくつもりで伺いました。しかし女将たちから、今は苦しい時間だけど、この時間を子どもたちのために使いたい、孤独な育児をしているお母さんや、孤独な食事をしている子どもたちに、自分たちの施設や心づくしを使って何か支援ができないか？と相談されました。この言葉を聞いて、私はこの人たちの愛と熱に応えなければ、行政や市長、地元国会議員を巻き込んでいい政策をつくらなければ、と思いました。温泉宿で幸せや充実を感じる瞬間を普段から得られる人たちの為だけではなく、それが様々な事情で得られない人たちにも、かけがえのない思い出や時間を提供したいと語った女将たちの想い。自分たちが苦しい時にも関わらず、そのような取り組みをしようとしている女将たちの志に触れ、私は胸がカーッと熱くなりました。



野党の役割とは何か

後藤会長 野党の立場だと政策を実現するにも様々な苦労があると思います。それでもなお頑張りたいという気持ちはどこから湧き上がってくるのでしょうか。

伊藤議員 先日、与党の同期議員に同じことを言われました（笑）。私が頑張れるのは、現場の「本当の声」を取材しているから。圧倒的当事者意識が持ち味だからだと思います（笑）

私は生理政策や更年期政策を提起しているのですが、「うわ〜生理とか言っちゃってる…」と冷やかな反応をする国会とは裏腹に、SNSには、これまで政治家と関わったことがないであろう中学生や高校生から沢山のメッセージやお手紙をいただき、更なる課題に気付くことが出来ました。ちなみに生理政策も、この度の政府の「骨太の方針」に盛り込まれるに至りました。

野党の役割は厳しい行政監視だけでなく、まだ着目されていない政策を提示する事でもあると思っています。最終的に政策を実現するのは与党や政府かもしれませんが、私は政治は「想いのバトンリレー」だと思っています。こんな事はたまらない、どうにかして、



という声が政治家には日々寄せられますが、それを聞き流すのか、心震わせるのか。

私が心震わせて一生懸命走ったとしても、野党の一年生に走れるトラックには限界があるのも確か。でもその時、私のバトンを受け取ってくれる超党派ママパパ議員連盟の仲間や友人がいて、党派を超えて取り組んだ結果、孤独対策やヤングケアラー支援、生理政策が進んでいく。それでいいのではないかと。

国会の中で働く710人の衆議院議員、参議院議員のバトンリレーは、間違いなく政策を実現する力になります。想いの総和がこの国の政策実現のエンジンであるべきです。

後藤会長 本日は誠にありがとうございます。今後の更なるご活躍を期待しています。これからも応援してまいります。

伊藤孝恵 参議院議員 プロフィール



国民民主党所属
愛知県選挙区選出参議院議員

国民民主党副代表、役員室長、超党派ママパパ議員連盟 事務局長などをつとめる。2児の母。学生時代の4年間はホテルでのアルバイトにより、宿泊業での現場経験をもつ。

サービス連合 第26回参議院議員選挙 推薦候補者

重点候補



徳永エリ氏 北海道選挙区
サービス連合政策推進議員懇談会
副会長



伊藤孝恵氏 愛知県選挙区
サービス連合政策推進議員懇談会
幹事

連合組織内候補 推薦候補者



浜口誠氏
比例代表 国民民主党